

何度目かの射●を終えた俺は  
雑巾と言いつけるほどに  
汚れた女を見下ろした

た……助け、て……  
助けて……  
お、お願い……  
許して、ください……

よこみちの  
横道梨乃は  
虚ろな目のままで  
懇願し続けていた

助けて、か  
俺もそうだった  
でもな、誰も助けて  
くれなかったよ

フ  
チャァァ……



半年ほど前  
帰宅ラッシュの電車の中で  
俺はこの女に痴漢の冤罪にかけられ  
示談金として金を払うように仕向けられた

本来ならばそれで終わりのはずだったが  
間の悪いことに、俺はその現場を  
当時の上司に見られてしまい  
事実無根なのに会社を追われた

俺は精神を病み、無気力になり  
収入も途絶え、気づけば  
目々の食事すらともに取れない  
浮浪者になっていた





んっ

ゆるして……  
もお……  
うあ……あ……

だ、れかあ……  
助けて……

助けて助けて  
うるさいな……  
そろそろ本題に  
入るとするか

俺はポケットに潜ませていた  
小瓶を手に取り  
口につけ、一気にあおった

こいつがなければ  
きつと俺はもう生きていなかった  
梨乃に報復しようという気にも  
ならなかっただろう

んっ





うえっ……  
まったく  
なんて味だよ……

っあ……ああ……  
や、だあ……  
も、いやああ……

はあはあ……ふ、ふひひ……  
出してやる、出してやるぞ……  
これで、最後だ……

んあ……ああ……  
さ、最後……  
や、やっ……終わる……  
うあ、ああああ……

ちゅっ  
ちゅっ  
ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ



ズグ

あ、ああ  
気持ちいいよお……  
ふひひ……梨乃ちゃん  
奥でたっぷり出してやる

は、はい……  
出しています……  
出しています、からあ……  
も、もお  
終わらせて、ください……

いいんだ？  
エッチだね、変態だねえ  
やっぱ淫乱だ

それなのに、俺から  
金を巻き上げるなんて悪い子だあ  
そ、そんな女の子は……  
きっちりお仕置きしてあげないと、なあ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ



おか、ね……？  
あ、あなた……  
私が駆除した……  
オヤジのひとり……？

駆除、か……  
そうだったのか……  
だったら俺が  
梨乃ちゃんを駆除しても  
問題ないよなあ？

な、なにを……  
で、できるものなら……  
やってみれば……っ

それじゃあ  
できるかできないか  
やってみようか







出る、出る出る……  
出すぞお……っ

っ……あ、うあ……っ  
ああああああああ……

セ  
ニ  
ブ  
ア  
ッ

ニ  
ブ  
ア  
ッ

ニ  
ブ  
ア  
ッ





はぁ

はぁ

なにも起こらない  
やっぱり……  
騙されたんだ

はぁ……  
終わり、でしょ……？  
終わったなら、どいて……  
もう、かかわらないで……

……まだ、だ

そ、そんな……

うん

うん

——う……



視界の景色がぐるぐる回り  
俺は意識を失っていた

お前さんがなにを思って  
命を絶つつもりかは知らん  
だが、もう1度  
人生をやり直すつもりはないか

なんだったんだろう  
あの身なりの綺麗な  
不思議な男は……

私の手にはとある薬がある  
こいつは、他人とお前さんとを  
入れ替える効果がある物だ

そんな与太話に  
縋ってしまった……





え……これ  
どういふこと……？  
どうして……、どうして  
私に私が見えるの……？

う……ん……  
え……っ？

俺が目の前にいる  
だと……？

どん



ふふふ……

あの男が言ってた通り  
入れ替えは実際に起こった

な、なにがおかしいんですか  
早く元に戻してくださいっ……  
そもそもあなたは誰なんですか……

誰って  
見れば分かるだろ？  
梨乃だよ、横道梨乃

そしてお前は  
梨乃を襲っていた  
浮浪者の白根穰しらねみのるだ

っ……そんな……





どうです？  
浮浪者になった  
気持ちは？

お前……あなたに  
私は、その生活を  
強いられてきたん  
ですからね？

回調が難しいな

そんな  
だからってこんな……  
ひどい……

身から出たサビ  
元々お前が悪いんだろ？  
さあ、とっとと行けよ

それとも、人を呼ぶ？  
いたいけな女の子を  
力で押さえつけて  
欲望の限りを尽くした  
強●者にさせてやろうか





俺の脅しに種になった梨乃は  
足をもつれさせながら立ちあがると  
そのまま走り去って行った

ふ……

ふひひひひひ

ひひひひっ……

楽しみにしてるよ

梨乃ちゃん

自宅、通っている学園の所在  
その通学時刻及び、通学方法  
現地に行かないと  
分からないこと以外は  
だいたい調べた

お前の人生を  
めちゃくちやに  
してやる





さて  
この肉汁まみれの身体を  
なんとかしないと

手っ取り早く近くの水飲み場で洗うか  
いや、水で洗うなら  
誰かに洗ってもらう方法があるな

そう思っていた俺の前を  
スーツを着た男が  
通りすぎていった

待ってください  
あの、少しお願いがあるんです  
実は汚れてしまった場所があつて  
でも手があまり届かない場所で  
このままだと帰りづらくて

ん？  
俺になんとかして欲しいのかな  
よし、分かったよ  
ハンカチを濡らして拭いてあげよう





それじゃあ  
水飲み場に行こうか

ここって……  
な、なんだこれ  
新手の援をとりつける  
方法なのか？

さっき、言いました  
ただ洗って欲しいだけって  
ね、見ておじさん……

ありがとうございます  
洗って欲しいのは  
ここです

ばっ

じゃあ

じゃあ

じゃあ

じゃあ

じゃあ



よ、よし  
分かった

おじさん？

いや  
外側も洗わないと

そうですけど  
欲しいのは  
そこじゃないです

あ、ああ  
分かってるさ

まったく  
おとなしそうな顔して  
中身はとんでもない子だな

女の子ですから





ふ、ふふふ……  
それじゃあ  
欲しがってる場所に  
送り込んであげようっ

んあ……  
はあ、んっ！

まったくどれだけ  
出されたんだい？  
かき出してもかき出しても  
出てくるじゃないか

ふああっ!!

女の身体って  
こんなにも感じる  
ものなのか  
予想外、すぎるっ

まあ、これほどに  
敏感な中ならば  
彼氏がむしゃぶりつくのも  
うなずけるがな





彼氏……？  
彼氏なんて  
いいません……  
あ、んんっ

いないのにこんなになるまで  
セックスしてたのか  
まったく……君は  
とんでもなくいやらしい  
女の子だよっ

ひい、あつ  
あああ……  
ダメ、声、出る……  
んああっ！

は、ははは、いい声だよ  
おかげでおじさんのモノも  
太く硬くなってきたところさ

ああ、君も感じているんだな  
おじさんの指にキュウキュウ  
吸いついてくる





気持ちいいっ  
ひっ、はあ……  
はああんっ！

もうかい？  
いいよ、いいよっ……！  
イッちゃっえ  
ほら、ほらあっ……

あっ、ああ……  
イクッ、イクうつ……

んあっ……あ、あああ……  
ダメ、ダメえ……っ  
イクッ、イクからあっ……

いったいなにが起こってるんだ  
触られ始めてから  
まだほんの少ししか経ってない

あ

イク

イク

イク

あ

ゾクゾク

イク







これが女の絶頂...  
なにも考えられないし  
なにもできない

気持ち、いい...  
んっ、はぁ...  
あ、あああ...

あぁあぁあ!!

セッ セッ セッ



今度は俺も  
気持ちよくしてくれるかい  
君のおかげで  
こっちも限界なんだ

ほら  
しゃぶってくれよ

ん……  
んんーっ!

んっむうっ……!!





お互いに  
気持ちよくなろう

なに勝手なことを言ってるんだ  
だが……今はそれにノってやるよ  
これも梨乃を貶めるために必要なこと

ん、ちゅ……ちゅば  
んっ、ちゅぽ、ちゅふう……

あ、ああ……  
うますぎる……  
く、まるで男のツボを  
心得ているみたいだよ……

んっ、んちゅ  
ちゅば、ちゅぽお……  
んっ、ちゅふう……

くああ……それ、いい……  
吸い込まれる感触、最高だよ  
そ、それじゃあ俺も  
負けてられないな





んうう……んんーっ！  
つぶあ……あ、ああ……  
イクッ、イツちゃう  
イツちゃうう……

あ、ああ……いいよ  
俺も、く、ああ……  
で、出る……



はあ……んっ、あん……  
か、顔にかけなくても  
いいじゃないですか……

ああ、ごめん  
飲みたかったか……

それにしても  
指でこれか……

俺は男と別れて  
梨乃の家へ向かった





光も人影もない  
ということとは  
梨乃の両親は不在だ

好都合

家中を歩き回り  
間取りを把握すると  
風呂の浴槽には  
湯が張られていた

あ、ああ……  
風呂だ  
久しぶりの風呂……

まずは……、洗おう……  
そして、湯に浸かろう……







ふあっ……!  
自分で触っても  
すごい……

ふあっ……





んんあつ、あああ……  
な、なにこれえ……  
こ、こんな、こんなあ……  
あうっ、はあああんっ！

あっ♡

しゅっ♡♡

しゅっ♡♡

しゅっ♡♡

しゅっ♡♡

あっ♡

しゅっ♡♡

ハッ♡♡

あつ、んうっ  
はあんっ！  
すごい、女、すごい

あっ♡

あ、ああ……  
な、なにが……  
なに、これえ……







はあ……ん  
はあ……、はあ……  
こんなの……  
男じゃ、味わえない……

な……♡

はあ

はあ

♡

はあ

快楽の波が引く時間が  
男と比べてはるかに長く緩やかで  
今こうしている間でも  
快楽が全身を満たしている

♡









まさか自分の摩擦音で  
興奮してイクとは  
女っ、女って、すげえ

はあ……ん  
あ……はあ……  
女ってエロいよお……

はあ……ん

イクッ

ん

はあ……ん

んああ……  
気持ち、いいよお……  
あっ、あああ……  
イクッ、イクッ……

イクッ

ん

イクッ

イクッ

ん

ん

ん



頭の中が真っ白になった  
なにも考えられない  
もしも感じる事が  
できるものがあるとするば  
それは快楽



はあ……はあ、ん……  
あ、あっ、んんっ……  
もっと、欲しい……  
んっ、んん……

ふっ……♡

ふっふっ♡

おっ……♡

はっ……♡

ふっふっ♡  
ふっふっ♡

ふっふっ♡

ふっふっ♡  
ふっふっ♡  
ふっふっ♡  
ふっふっ♡

久しぶりの湯船に  
浸かるはずだったのに……  
女って  
気持ちよすぎるだろ……



ん、んん……  
ふふ……  
さいっごお……

くた……

ふ……♡

ふ……♡

気づけば、秘部から漏れ出すのは  
愛液だけになっていた  
だが、そんな状態になっても物足りない  
中身が男であるにもかかわらず  
俺は誘い込むべきモノがないことに  
胸を切なくさせてしまっていた



明けて翌日  
俺は梨乃になりきるには  
欠かせない学園への  
登校をしていた

お？

梨乃と同じ学園に通っているだろう  
制服姿の男の子の姿が目に入った  
背格好からして下級生ってところだろう

よし  
あの子にするか

俺は目をつけた  
男の子に向かって  
近づいていった

ぎゅ







ね、なにが  
当たってるの？

その……

ニャニャ

からかってないよ

せ、先輩がそうしたんじゃないですか  
からかうのやめてください

すっかり大きくなっちゃったね

ふふひひ……  
楽しい、楽しいぞ

ニャニャ

ニャニャ



ね、どうしようか、これ  
このまま精●出しちゃう？  
それともズボンの中に戻す？

え、あの……  
せ、先輩……いったい  
どうしたんですか……

ぼくの知る先輩は  
こんなことする人じゃ……  
あうっ

ふふ……

それならそれでちようどいい  
俺が作り出す梨乃を  
この男の子に植えつけてやる

この口ぶりは  
梨乃を知っている  
後輩だったか





せ、先輩……  
あ、あ……ああ……っ

そんな気持ちよさそうな  
声出したら  
見つかったちゃうよ

せ、先輩……ダメ  
見つかる……  
あ、うう……

ふふ、かわいいお漏らし  
もうやめられないよね  
気持ちよくなっちゃうお？  
ね？









ふふ、いっっぱい  
出されちゃった

ご、ごめんなさい……  
先輩の手  
気持ちよすぎて……

いいよ  
だって、エッチしたの  
私からだもの

くそ、なんなんだこの感覚は  
お腹の奥がなにかを訴えるように  
疼いて、男のモノを割れ目の奥の奥に  
ぶちこませたくてたまらなくなってる





これは演技じゃない  
梨乃の身体が  
そうさせてるんだ

あの、先輩……  
もしかして、欲しいんですか？  
いいえ、もらってください  
ぼくの、童貞……

ふふ……  
そっか

これも女としての役得か  
いいぜ、もらってやるよ

場所をどこにしようかと  
電車の中を見回すと  
明らかにニヤけている  
2人の男達に目がとまった



あの2人は  
気づいているな……  
3人を相手にすればいいか

どうやら  
気づかれて  
いたみたい

あ……  
ど、どうしよう先輩  
ぼく、どうしたら……

慌てないの  
大丈夫、私に任せて  
行きましょ

俺は男達に近づく

気づいていたんですね？  
私とこの子のこと

だったら？  
なに？  
相手してくれんの？



いいですよ  
しましうか  
セックス

なんだよ  
これ……

マジかよ……

先輩……そんな  
いったいどうしたんですか  
ぼくの知ってる先輩は  
こんなことするようない  
人じゃ……

簡単なことだろ  
お前が知ってる先輩は  
表面上だけだった

お……  
お……





ただそれだけ、だ

んんっ……

いいね  
いいよ、あんたの中  
きっちり濡れていて  
よくほぐれてる  
男ウケする、エロ穴だよ

やはりそうか  
すでに梨乃の身体は  
開花している  
この、淫乱が

それじゃあ動かすぜ  
その童貞くん  
しっかり見とけよ  
セックスするのは  
こうするんだ

んあ……あ  
ふ……あ……んんっ  
すご、気持ちいい……  
あっ、ん……はあああ……

あっ♡

はは、いい顔してるよ、あんた  
って、お前ばっか  
楽しんでないで  
早くオレ達にもやらせろよな





分かってるよ  
んじゃ、痴女ちゃん  
いくぜ



ふあ……  
あっ、あああ……  
っ……んんっ！

あふっ……んああ……  
いいいい……  
すっごい……

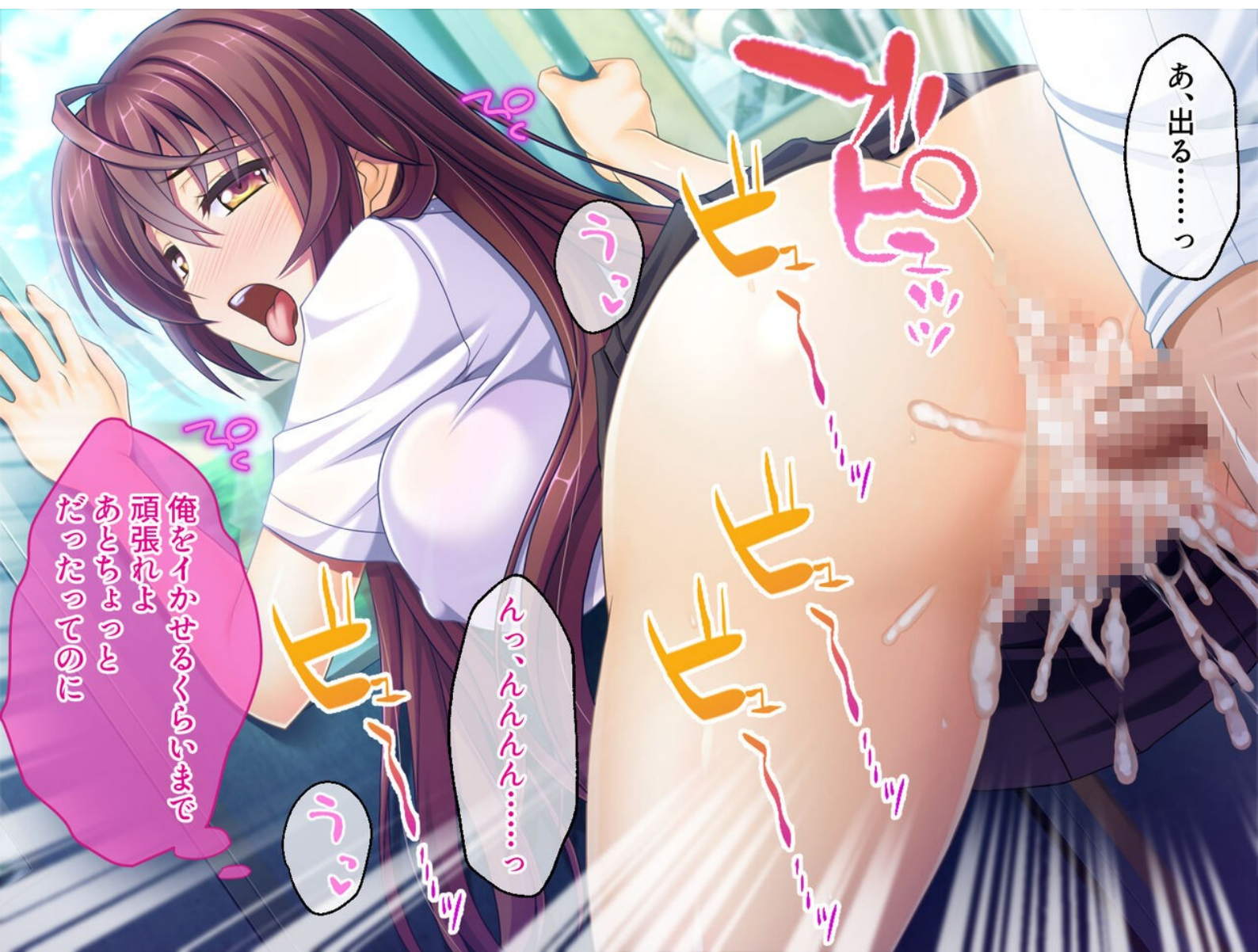
あ、あああ……  
イ、イきそ  
イツちゃいそうら……

あっ  
♡

あっ  
♡♡

んん  
んん





あ、出る……っ

んっ、んんん……っ

俺をイカせるくらいまで  
頑張れよ  
あとちよっと  
だったってのに



それにしても  
早かったな  
早漏か？

はぁ♡

そういうことにして  
おいてやるさ

ちげえよ  
こいつがよすぎるんだ  
ったくかわいい顔して  
中身は超ド級のスケベとはな

な、なんでもいいから  
次、きて……  
イキかてるんだからあ

はぁ♡

早く……ふさいで……  
私のココに  
ぶっとい栓、してえ……







そんな  
がつつくなつて  
今、してやるよっ

ふあ……っ  
んんっ！

こいつは……っ  
エッチなお勉強の  
しすぎだよ……

めちやくちやに  
吸いつきやがって  
このエロ女っ……

あっ……

はっ

あっ……

はっ

はっ

あ、あんんっ……あ、はあ  
はうっ、あううっ……  
イクッ、イツちやう……  
あっ、あっ、あああああ……





くあっ  
し、締めるな  
出る、出ちまう……っ

私も、私も……  
イクッ、イツちゃうの  
精●で  
イかせてえええ……

ドキュン

ドクダ

ドクダ

ドクダ



こいつは  
マジでたまん  
まったく女の絶頂は  
恐ろしい

はっ  
はっ  
はっ

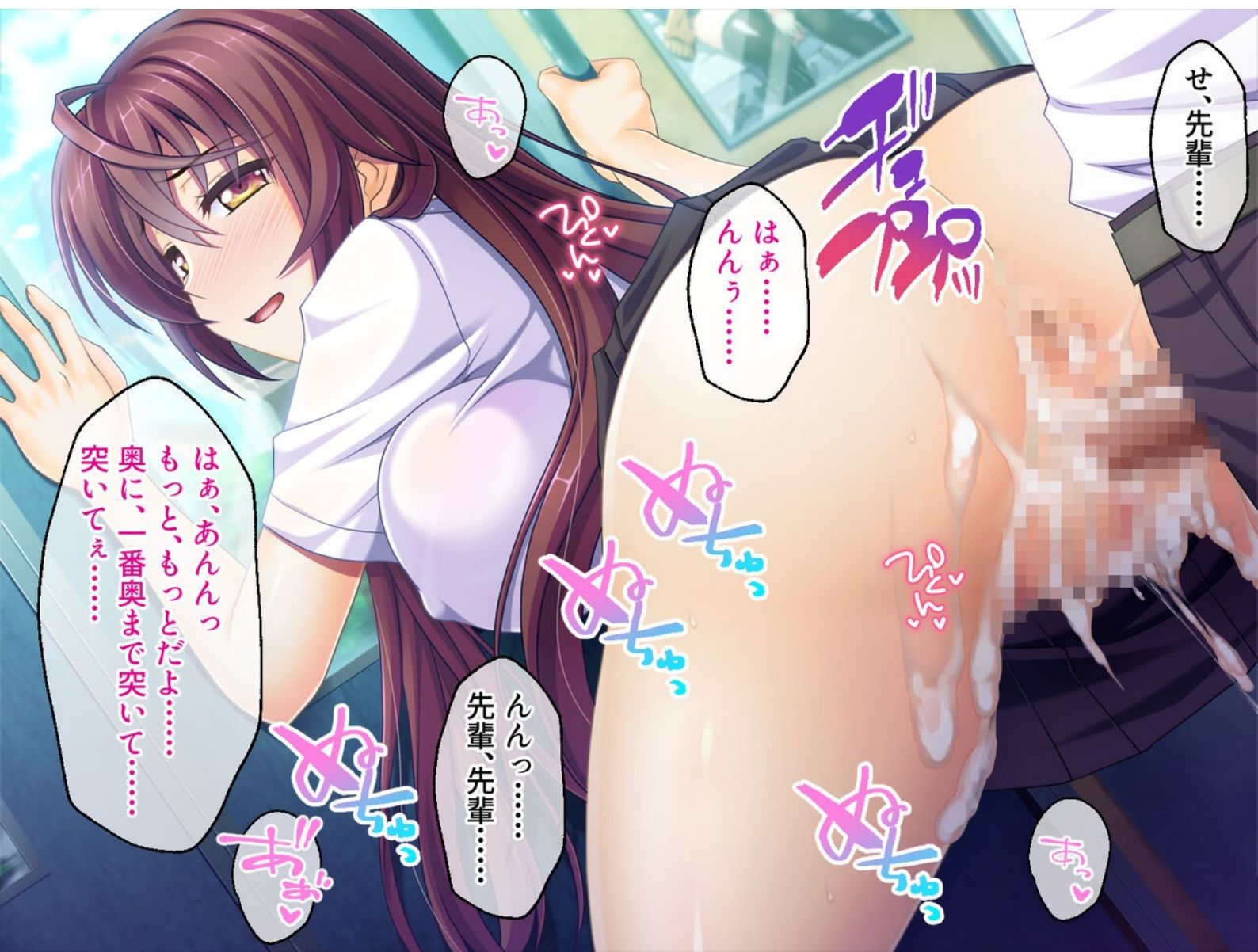
はっ  
はっ  
はっ

え、いえ……  
だから、ぼくは……

さて、最後だな

シヨ?  
エッチで  
気持ちいいこと……





せ、先輩……

はあ……  
んんう……

ひゅん

アッ  
アッ

ひゅん

ぬちゅ  
ぬちゅ

ぬちゅ

あゝ♡

あゝ♡

んんっ……  
先輩、先輩……

ぬちゅ  
ぬちゅ

はあ、あんんっ  
もっも、もっもだよ……  
奥に、一番奥まで突いて……  
突いてえ……



先輩、先輩……  
気持ちいい……  
あ、くううう……

俺は男の子の長い射●を  
受け止めながら  
その快感に酔いしれた





しばらくすると  
電車が学園の最寄駅に到着する  
俺と下級生の男の子は  
男達と別れ電車をあとにして  
学園に着くとそのまま屋上へ向かった

ふふ  
まだ大きいまま……

はぁ♡

はぁ♡

きゅ♡

先輩、先輩……  
はぁ……、あ……  
気持ちいい  
気持ちいいです……

蕩けそう、ぼく  
先輩に蕩けて  
しまいそう……

はぁ♡







せ、先輩……っ

先輩……っ  
あっ、ああああ……

はあ……んっ……  
精●……んっ  
あ、あはああ……

あっ♡

あっ♡

んぎ♡





まだ、できるよね  
だって、あなたの  
まだまだガッチガチだよ  
ね、続きしよ?

せ、先輩っ……!  
う、ああ……

んっ……ほらほら  
私ばかりに動かしたら  
ダメでしょ?  
あなたは、男の子なんだから  
ね……

先輩……  
はい……っ





せ、先輩……っ

んんう、はあ……あうっ  
はあ、あつ、はああんっ！  
やだ、これイイ……  
気持ちいい……っ！

いいいよ出して  
私も……私も  
イクからあ……

出して……  
あなたの精●  
味わわせて……

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ









はあ……  
ん、んう……  
はあ、はあ……

はあ……♡

……あの先輩  
また相手して  
もらえますか？

はあ……♡

約束はできないけど  
気が向いたら、ね

はあ……♡



午後の授業を終え  
俺は公園へと足を運んでいた

セックスはできたし  
男との違いというのも分かった  
これなら俺も楽しみながら  
梨乃の淫らさを広められるだろう

そうなれば  
人数が増えてくるよな

そうだった時に  
俺なら間違はなく  
ケツの穴にぶちこむ

開発しておかないと  
えっと――

俺は公園を歩きながら  
手ごろな男を探し  
ベンチに座っている  
サラリーマンを見つけた





おじさん、あの……  
私とセックスしてください  
お尻で

俺は手にしていた  
スカートを  
大きく持ち上げた

縦……、スジ……？

か、金ならないぞ

要りません

そ、そうか……  
じゃあ

うん











あゝ♡

はあう……んっ  
んあ……あんんっ！

んん♡

へえ、感じやすいんだ？  
そりゃ、痴女になってでも  
やりたくもなるよな

それならなおのこと  
湿らさないとだろ  
痛がってる女の子を  
見続ける趣味はないんだ

んん♡  
んん♡  
んん♡



いいじゃないですか  
それより  
充分に濡れましたよね

ブルブル

んっ

そりや、まあ……  
仕方ないな  
よし、いくぜ

ぎ、ううっ……  
あ、ぐ……あ……っ  
く、苦し……っ  
苦しいい……

ぬる

グハッ

ズン



こっちがいいと  
言ったのは  
君だろっ

ズン

ッ……  
あ……あ……  
あああ……

よし  
入ったぞ

ズン

あ、ぐ……  
ああああ……

ハキッ

ハキッ

ハキッ

お、おお……  
なんだ、これ……  
ずいぶんと気持ちいい  
じゃないか……っ



やめ……  
ぐ、あつ、あぐう……  
やめて、やめてええ……

うっ

あ……あ  
が……う……  
あ、あああ……

んっ

それにな、痛いなら  
少し力を抜いてみたらどうだ  
さっきから穴の入り口が  
ギチギチに縮んで  
動かしづらいんだよ

今さらやめられるか、よ  
くっ、おっ……うう……  
すっげ……くう……

うっ

チッ  
チッ  
チッ



力、を……っ……  
ん……はあ、はあ……  
はあうっ!?

んっ、くっ……  
はあ、あっ、んんっ!

は、はは……マジか……  
くっそエロい女だなっ

こんなすぐに  
ケツで感じ始めるなんて  
なあっ!!





ひっ、んああっ……  
あっ、ああああ……

く、うう……  
めっちゃ、吸いつく  
も、もたない……っ

んあっ、あああ……

くっそ……まだまだ  
楽しみたかったのに……  
あんたの、よすぎるんだよ……





今度こそあんたも  
気持ちよくさせてやるよ

あゝ♡

分かってるよ  
そんなことは  
ああ、周りの人が  
気づいたみたいだ

はぁ♡

あ、くうんっ……  
お、おじさん……  
んっ、んん……  
こ、ここ公園……

はぁ♡







甘美な電流が  
ア●ルから  
胸から走る  
抗えない

も  
みゅ

も  
みゅ

も  
みゅ

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

も  
みゅ

いいね  
続けるよ

うん……



あ、あぁっ……  
あんんっ！

ゾクゾク

はっはっ

あっ、あぁっ……  
お、お尻い……  
ケツ穴なのに  
気持ちいいい……  
気持ちいいいっ……！

こんなの  
こんなの  
初めてええ……

はっはっ  
はっはっ  
はっはっ

はっはっ  
はっはっ

んああ……あ、あぁあ  
だ、ダメえ……ダメえっ……  
い、イクう……イクちやう  
イツちやううううう……



あ、ああ……  
そのままイッてみせろよ  
こっちも出すぞ……

流し込まれる白濁液の感触が  
肉壁を染め、頭の奥に  
その気持ちよさを伝えていた





絶頂の快楽が薄れた頃  
快楽は別腹とばかりに  
余韻をもっといいものに  
しようと身体が疼いてた

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はぁん……  
んっんっんっん……  
そろそろ出そうですね

はっ♡

あ、ああ……  
気持ちいい……  
うまいよ……

はっ♡









悪くない  
顔や髪の毛から流れ落ちてくる  
青臭い液体の感触が  
不思議と気持ちいい

フチャッ...

はあはあ、ん……  
ん、ちゅっ……  
はあ、おいし……

んっ♡  
ヒキヒキ

ハンカチで顔を拭ってもらい  
男と別れたが  
体はまだ、疼いていた





公園を出ると  
道路わきに止まった  
車の近くに  
下卑た笑いで  
こちらを見ている  
男が2人いた

.....

俺が車に近づく  
と男たちはスツと  
車のドア開けた

お前

んんっ

んんっ.....!







あっ  
はあんっ！

はは  
いい声

あっ♡

あっ♡

あ、ああ……、こいつは  
かなりの好きモノだっ

あ、ああっ……ああっ！  
ああ、もっ  
もっとしてえ……

んっ♡

ズキッ  
ズキッ

ズキッ  
ズキッ

ズキッ  
ズキッ

ズキッ  
ズキッ

ズキッ  
ズキッ



はは  
めっちゃ  
いいわ……

私も……んっ  
ああ……  
気持ちいい……

んっ♡

なんだ？  
なにを見たんだ？

いっわぁ♡

あっ♡

かわいい顔して……  
ん？  
え、これって……

あっ♡

はぁ♡

後ろにいた男が  
ファスナーを下ろす  
音が聞こえた



んっ、あ……  
ま、待って  
待ってえ……

くくっ

ズッ  
ズッ  
ズッ

うっ  
うっ  
うっ

あ、ぐっ……  
うううっ……

んっ  
んっ  
んっ

ハッ  
ハッ  
ハッ

くくっ  
なにこいつ  
すごっ





まったくだな  
すごく気持ちいい穴  
してるから  
優しくしてやろうと  
思ってたのになっ

はぐうつ!?

そんなの  
いらんだろ  
こんな肉女っ

ぎはっ  
あゝあぐうつ……!



は、はあ……ああ……  
つ、強い……んあ  
あ、あああ……  
壊れちゃううう……  
私、私い……

はあ？  
壊れるかよ  
こんな、ギッチギチにさせて  
気持ちいいんだろ？  
ケツ穴と両方掘られて、さあ？

素直になっちまえて  
同時がお望みなんだろ？

んあ……あつ  
……はあんっ！

あつあつ





気持ちよくなってきた  
……こいつやっぱ  
最高で最低の女だ

は、はあ……んっ！  
あああっ……  
お尻もアソコも  
気持ちいいっ  
はああんっ！

ああ、ああ  
そうだよなっ

んああ……  
き、気持ちいい……  
気持ちいいよお……

あっ、あああ……  
ダメえ……、イクッ  
イッちゃうう……









いいくぞ  
出すからなっ

うん、うん……  
あつ、あああ……  
イ、イクッ

ジュッ

ジュッ

ジュッ



はあ、あ  
はあ……  
はあ……

はは  
まだ締めてるよ  
さすが淫乱

終わったばかりなのに  
まだ欲しいってか

そんな……

きゃ♡

きゃ♡

ん……♡

はっ♡……♡

はっ♡……♡







ガッ

ん、くあつ  
あ、あああああつ！

安心していいよ  
きっちり満足させて  
やるから

ああ、あんたから  
求めてきてくれれば  
遠慮なくできるっでもんさ

ま、待ってええ……  
ちよつとでいい  
休ませてええ……

ハッ

ガッ

あッ

んっ

んっ

は？  
ごまかさなくていいよ  
休みたくなかないだろ

こんなにケツ穴締めつけて  
何言ってるんだ  
そんながつつかなくても  
満足させてやるって、なあっ！

あっ、あああああ……  
イ、イクッ……イクうっ  
あ、ああああああっ  
ああああああっ……





小一時間後

あつ、あつ……あつ……  
もお、ダメええ……  
気持ちいいの  
もお気持ちいいの  
ダメえええ……

そろそろ  
俺も限界だ……

さすがの淫乱でも  
ダウンみたいだな

おっ……♡

おっ……♡

はあ……ああ……  
もお、終わらせて……  
く、狂っちゃう  
狂っちゃう……





くっ……  
だ、出さず……

あ、ああ……  
俺も、だっ

あああああ……

×××も腸壁も  
感覚がぼやけていて  
もはや脈打つ●棒を  
感じ取れなくなっていた



今日は休日なので  
梨乃という女の痴態を痴女性を  
広めるために  
電車でオ●ニーすることにした

ああ……んんっ  
気持ちいい……  
気持ちいいよ……  
あ、はあうんっ！

っ……  
ま、丸見え……

あっ♡

あっ♡

くっくっくっ  
くっくっくっ  
くっくっくっ

くっくっくっ  
くっくっくっ  
くっくっくっ

な、なに  
してんだよ……  
あの女……

痴女ってやつか  
こんな真昼間から  
変態だな

はぁ♡





そうさ変態だよ  
だったら遠慮なんて  
いらないだろ？  
さあ来いよ

あ、あつ、ああんっ！  
もっと、もっと欲しい……  
指より大きくてえ……  
硬くてえ、熱いモノ……

んっ♡

どうせ  
罠だろ……っ

あ♡♡

さ、誘ってる  
のか……？

あ♡♡

んっ♡  
んっ♡





あつ、ふあ……んっ……  
もっと……いいモノ  
欲しい、欲しいのお……

ああつ、ダメ  
こんなんじや  
足りない……  
足りないよお……

うっ……

くっ……

くっ……

くっ……

くっ……

うっ……

くっ……

……くそ  
やりてえ  
けど……

おっ……

誰1人として  
俺に近づいてくる  
男はいなかった













た、立ったぞ

お前らは  
勃ってるな

ば

く  
はあ

な、なにいつ……?!

おいおい……



ふふ  
はやくう

誘ってるんだよ、な……  
いや、でも……

しよ？

ごっくっ

きて……  
アソコとお尻……  
我慢できなくなってる……





お尻っ!?

ハッッッ……♡

ふひひ  
興奮するだろ?  
俺もだ

高揚を強める俺に  
男達が近づいてくる

はあ……  
おっきい……  
硬くて  
おいしそ……

楽しませてね

ああ  
最高だよ……

はあ……んっ！  
ああ……んっ  
や、これ、いい……  
すごく  
気持ちいいっ……！

あっ  
♡







あつ、あああ……  
お、奥まできてるう……

わ、わたしのエッチな奥う  
ゴツンゴツン  
た、たたかれてる……  
うんっ、んあ、はあんっ！

はは、いい具合だよ  
行き止まりを  
突き上げるたびに  
ギュ、ギュってさ……

もっとそれ  
やってくれよ  
こっちも  
思いつきり縮んで  
吸いついてくるんだ

はいよ  
こう、かいっ

あっ  
♡

あっ  
♡

んああああああっ……！  
いいいよ、すっごく……  
うんっ、んっ、んあっ  
あ、ああ……お尻い……  
圧迫されるうう……

んああああああっ……！  
いいいよ、すっごく……  
うんっ、んっ、んあっ  
あ、ああ……お尻い……  
圧迫されるうう……

圧迫してるのは  
あんただよっ  
ほんと  
どうしようもないな

ひあっ!?  
あ、ああああ……  
そ、そんなあっ  
言わないでえ……んあっ  
あっ、あああんっ！

す、好きなのお……  
ただエッチするのが  
好きなのお……

あっ  
♡

あっ  
♡

あっ  
♡









あゝゝゝ

分かってるさ  
今、そのエッチなお汁を  
かき出してあげるよ  
そおらっ

あゝゝゝ

んあ、ああああ……っ  
んん……あ、あつ  
あふつ、はあんっ！

はあ、んっ  
はあ……  
あ、あんっ！

バハ

バハ

バハ

バハ

あゝゝゝ

この……っ  
く、ああ……  
で、出る……

くっ、ううっ……！

あゝゝゝ









で、出る……  
っく……

んっ……出して  
出してえ……精●で  
アクメらせてえ……  
あ、ああああ……

こっちもだ……  
出すぞ……



それにしても  
何度味わっても  
気持ちがいいもんだな  
まったく女ってのは  
最高の生き物だよ

んっ……  
あ、はあ、はあはあ……  
足りない……

もっと……  
もっともっと……  
恥ずかしく汚らしく……  
交わりたい……

火照った身体のまま  
脂ぎった中年男性に  
近づいていった

っ……  
な、なんだ君は  
わたしに  
なんの用だっ……！

はっ……♡

はっ……♡

ふふ  
怯えなくても  
大丈夫だよ？

ねえ、おじさん  
私と気持ちいい  
こと……、しよ

ちゅっ

ちゅっ  
ちゅっ

おじさん  
気持ちいい？

私の、いやらしい  
アソコ……  
ね、どう？

ちゅっ、ちゅば……  
はあ、んっ、んんっ……  
いいよね、おじさん

んんうっ!?!  
ふあ……はあ  
き、君……っ！

おじさん

ちゅっ  
ちゅっ

ちゅっ  
ちゅっ





私、おじさんの  
男らしいところ見たいの  
ダメ？

ッ……  
ふっ、ふっ……  
ぐふっ……

あ、あああんっ！  
さ、さっき  
イッたばかりだから……  
すぐ、イッちゃいそ……  
うんっ、んんっ！





ぐふふ  
そう簡単には  
イかせんぞ  
いや、耐えろっ

はあああんっ！  
や、やだ  
おじさん……強い

そんなにされたらあ  
イツちゃう、すぐに  
イツちゃううう……

おっ  
はまっ  
はまっ



—なら  
こっちでも  
味わえよっ

いいっぱいいい……  
わ、私の中あ……  
いっぱいに……  
ひいん、んぢゆるう……







あゝ♡

くう……  
いい締めりだよ

オッサンが  
ゴリゴリ擦るたびに  
ケツがキュウキュウ  
吸いついてきやがる

欲しかったんだろ  
こっちにも、なっ！

あゝ♡

うん……  
欲しかったのお……っ  
あっ、ああんっ！

もっとなんとして……  
お尻もアソコも  
ぐっちゃぐちゃにい……

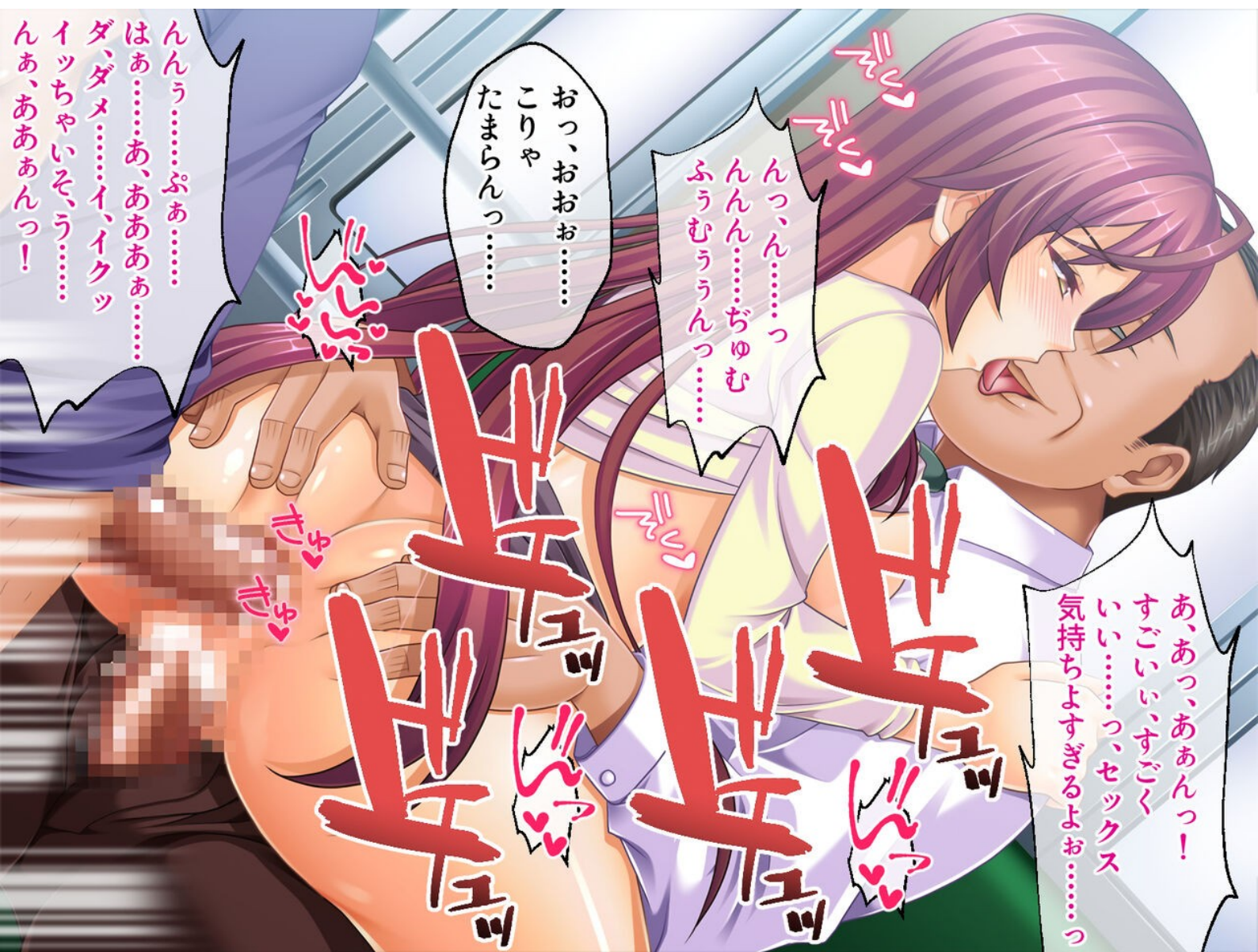
えぐって、ほじって  
かき混ぜて……  
気持ちよく、してえええ……

いっ♡

あゝ♡

そんなの  
言われるまでもない





あ、あつ、ああんっ！  
すごい、すごく  
いい……っ、セックス  
気持ちよすぎるよお……っ

んっ、ん……っ  
んん……ぢゅむ  
ふうむうんっ……

おっ、おおお……  
こりや  
たまらんっ……

んんう……ぷあ……  
はあ……あ、あああ……  
だ、ダメ……い、イクッ  
イッちやいそ、う……  
んあ、あああんっ！





ふっ、ぐふふ……

ひっ……、ああああああっ！  
お、おじさんダメえ……  
奥、今、奥はあ……あっ！  
ああ……んっ、んむううっ！

ふふふ……もう少し  
もう少しだっ……！  
おおっ！

あ、ああ……  
こっちもだ

んあああっ……！

も、ダメええっ……

イクッ、イツちやうう……

出して、出してええ……

精●い、出してええっ……！

はっ  
はっ  
はっ





お!お!お!  
お!お!お!

ド  
セ  
ン

あ、ああ  
出してやるっ  
出してやるぞっ

しっ  
かり  
ケツ  
穴で  
味  
わえっ

♡  
♡

♡  
♡  
♡

ド  
ン

ド  
ン

ド  
ン

ニ  
ャ  
ニ  
ャ

ニ  
ャ  
ニ  
ャ

ニ  
ャ  
ニ  
ャ



なんて  
吸いつき、だ……っ  
あ、くうっ……

んんうっ……！

イッたはずなのに  
気持ちよく  
なっただけなのに  
……足りない

ねえ……  
もっと、シよ？

後ろにいる男達に声をかけ  
みんなで一緒に電車を降りた







くっ  
めちやくちや  
気持ちいいぞ  
この子……

ん、んんっ……!

こいつは  
当たりだったな

ああ、逃がしたら  
後悔してたところだ









んっ……はあ、はあ……  
んん、ふふ……  
イッちゃったあ……  
き、気持ちよかったあ……

は、はは……  
幸せそうな顔して

ああ  
まったくだな

よへ♡

んっ……♡

♡♡♡



朝になり  
男たちの背中を見送っていると  
後から懐かしい声がした

返して……！

もちろん  
返してあげるよ  
この身体

ど、どうすれば  
戻るのっ！  
教えて、教えてっ！

簡単だよ

俺は俺となっている  
梨乃に近づき  
耳打ちした





俺になった梨乃が  
足早に去っていく  
おそろくは  
薬を隠してある場所に  
向かうのだろう

それにしても  
自分でこの身体を犯●なければ  
いけないなんて、嘘だけど

男になれた  
ちよっとした記念だ  
梨乃……ふひひっ

うきうき

それから  
今まで作ってきた  
人脈の男達に連絡を入れて  
夕方の公園へと誘った





……来たわよ

それじゃ  
始めるとしようか  
梨乃ちゃんが男でする  
最初で最後のセックスを

パロ

ッ……なっ!!  
あ、あなた……っ



やりやすいだろ？  
どうだ、自分の女を  
真正面から  
見てみた感想は？

いやらしいだろ  
これがお前の割れ目だよ  
ふひひ  
エロすぎて声も出ないか？

おぞ  
おぞ

ッ……  
ふ、ふざけないで……っ  
私の声真似しないで……！  
クズッ！

梨乃は手にしていた  
瓶のキャップを開くと  
一気にあおった





始めましょう……っ

はあ……んっ！

あっ♡

な……ん……あ  
な、なに……  
これ……っ……  
んあっ……んんっ！

なあんだ……  
オ●ニーも  
してなかったんだ  
もったいない

きゅ♡

ズン  
ズン

そ、その言い方、だと……  
あ、あなたは……

当たり前じゃない

こここの……  
私の、私の身体をつ……  
よくも、よくもおおおお  
おおおおおおおつ！

あ、  
♡

ブ、ブ、ブ、  
ブ、ブ、ブ、  
ブ、ブ、ブ、

ブ、ブ、ブ、  
ブ、ブ、ブ、  
ブ、ブ、ブ、

あ、  
♡

んっ……  
あつ、あんっ！  
いい、いい気持ちいいよ……っ  
はあ、はああんっ！



殺すっ！  
あんたは  
どんなことをしても  
私が、私が絶対に  
殺してやるっ！

ふあんっ！  
んっ、はあ……  
あんっ！

っ、喘ぐなっ！  
私は、そんな  
女じゃないっ！

あゝ♡

あっ、あんっ！  
激し……んっ  
か、感じる？

私の中あ、エッチいお汁でえ  
いっぱいになってるんだよ……  
んっ、んあっ……  
あ、ふああああんっ！

あゝ♡

あゝ♡

ズキッ  
ズキッ  
ズキッ

やめろ  
やめろ  
やめろお……っ！



あ、ああああつ!  
もっと  
もっとだよ……  
あああつ!

黙れっ!

ああつ、もっと……!  
あ、んあああああつ!

黙れっ!言ってんだっ!  
このクズがあつ……!  
くっ、あああああ……

あ

あ

ジーン

ジーン

ジーン

んんっ!  
出すう?  
出しちゃう?  
きつとあなたの知らない  
本当の自分を目にできるよ?





んあああつ！  
あ、あああ……そ、それ  
ダメ、ダメええ……あ、あつ！  
イクツ、イツちやうう……

この、クズッ！  
クズッ！

私は、私はそんなに  
いやらしくなんかないっ  
あんたが仕込んだ  
くだらない快樂なんかにっ  
負けたりしないっ……！

あ、あつ

ふひひっ  
忘れるなよ  
その言葉っ……  
んっ、はあんっ！

わ、忘れるのですかっ……！  
あ、ああ……  
な、なんか、出そ……





それが射●する衝動だ  
ふ、ふふ……それら  
出せ、出せえっ！

出してやるわよっ！  
あ、あああ……

あああああ  
あああああ  
あああああ

くう、はあ……  
ん、んんんっ……！



はあはあ……  
んっ、ふ、ふふふ……  
これで  
計画は完了さ……

は？  
そ、それって  
どういう……

今に分かる  
ふ、ふひひひ……

ふ……♡

ふ……♡

入り口の方から  
たしかな靴音が  
聞こえてきたのを最後に  
俺は梨乃と一緒に深い闇の中に  
意識を吸い込まれていった





薬の効果が終わ  
り俺は目を開けた

示

いっしょにがんばろう!!!

先輩  
そんな演技  
やめてください

離して、離して……  
んぐっ、んぶ……  
んぶうんんんっ！



ふひ  
ふひひひひ……

俺は完成した復讐に  
笑みを浮かべながら  
個室トイレから  
外へと出て行った

ドキッ  
キョッ

ドキッ  
キョッ

んうっ、んっ！  
んぶううっ！

ドキッ  
キョッ

今日はやけに  
抵抗するんですね  
先輩

ドキッ  
キョッ

そういうプレイ  
なんだろうさ

ドキッ

なるほどな





本当に  
エッチで変態だね  
梨乃ちゃん

ん……んぶあ……  
はあ、はあ……  
や、やめて、ください……

んんっ……んんっ  
……んんぐううっ!!

あれ、もう  
イッちゃうの？

それじゃあ  
まず1回目  
ってことで





くっ...  
で、出る...

ああ、こっちもだ  
イクよっ  
梨乃ちゃん...っ

サッ

ドッ

サッ

ズッ  
グッ  
クッ  
ズッ  
グッ  
クッ

ドッ  
グッ  
クッ  
ズッ  
グッ  
クッ

ズッ





ゴッ

げほっ  
げほっ  
げほっ………

だっ

もっとも、こんなのは  
これから始まる  
生き地獄の入り口だ  
俺に与えた絶望を  
お前も味わえよ

ふひ、ふひひっ……  
なんて無様なんだ

うん  
うん

はあ、はあ……  
げほっ  
な、なんで……  
こんなこと……

なんでって？  
毎日やってたこと  
なんだけどな

あれ？  
先輩、なに  
怯えてるんですか？

おかしいなあ……  
セックス  
大好きですよ

いいや……  
もう……もう許して……  
お願い、お願いいいいっ……



もう演技は  
いいんだよ  
梨乃ちゃん

それじゃ今度は  
俺達が気持ちよくして  
あげるからさ

んんぶあ……  
た、助けて……  
助けてえ……っ  
んぐぶうううっ……

んっ……んんっ！  
……あ、はああんっ！

ふ、ふひひっ……  
新しい人生の幕開けだ

梨乃の喘ぎ声が聞こえ始めた  
トイレから、俺は上機嫌で  
出て行ったのだった

終



©スピンドル